

【国語】

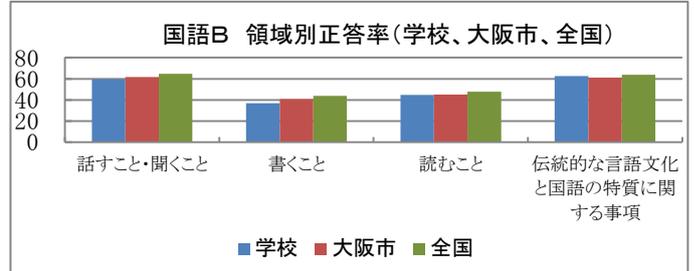
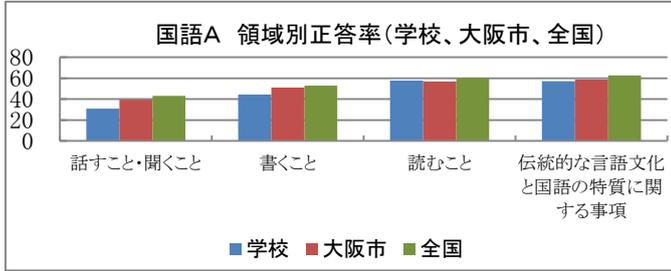
結果の概要

○設問数の最も多い「言語についての知識・理解・技能」の領域で、全国・大阪市平均とほぼ同じ平均正答率となっている。しかし、その中で「漢字を読む」ことについては理解度は高いものの「漢字を書く」ことについては大きく下回っている。

○特に、「書くこと」に対して強い抵抗感を抱いている。授業の中で「自分の考えを話したり書いたりする」「自分の考えの理由がわかるように気をつけて書く」といった児童の割合が低いことからこのことが考えられる。

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	30.9	39.5	43.2
	書くこと	4	44.3	51.1	53.0
	読むこと	3	57.6	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	57.2	58.7	62.6

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	59.7	61.7	64.8
	書くこと	4	36.8	41.0	43.8
	読むこと	4	44.8	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	62.7	61.0	63.8



国語に関する「児童質問紙」

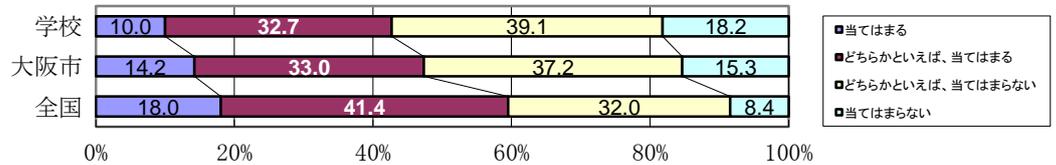
I 53 II 52 III 62
国語の勉強は好きですか



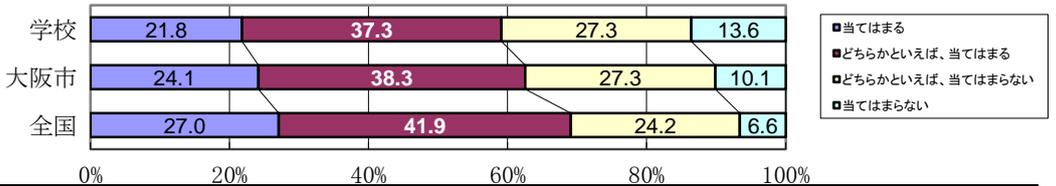
I 55 II 54 III 64
国語の授業の内容はよくわかりますか



I 58 II 57 III 67
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 69
国語の授業で自分の考えを書き、考えの理由がわかるように気をつけて書いていますか



成果と課題

数年前から、校内の研究テーマとして国語科・算数科の授業を中心に「伝え合う力」の育成に取り組んできた。校内アンケートの中で「授業中、自分の意見を発表している」という質問項目に対して、ここ数年70%以上が「あてはまる」という回答が見られることから、ほぼ成果は出ていると言える。しかし、漢字の正確な書き取りや自分の考えをわかるように書く力を育てていくための具体的な指導が今後の課題である。

今後の取組

- 朝のチャレンジタイムを活用して、漢字学習の充実化を図る。
- 他教科との関連を図りながら、特に「書く力」に重点を置いた指導方法を追究していく。
- 情報を整理したり資料を読み取ったりしながら自分の考えを説明する機会を意図的に多く持つようにしていく。